

講義コード	11C0120101	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期
科目名	アジア経済論2 / アジア経済B					苑 志佳		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義は、前期講義で勉強した基礎知識に基づいて東アジアの経済発展を実態面から検証する。講義Aは「理論」と位置付けば、講義Bは「実証」になる。東アジア地域は経済規模と経済発展水準において多様な国々・地域をそのうちに含んでいる。講義Bでは、東アジアの多様性に焦点を当て、講義Aを通じてマスターした研究視点・手法を用いて東アジアの経済発展メカニズムを実証的に考察する。具体的には、アジア NIEs、ASEAN、中国の順で東アジアの経済発展過程・特徴を紹介する。また、東アジア経済の今後については、グローバル化の視点から地域経済一体化の条件および可能性を探る。								
到達目標	本講義を履修する者は、東アジア経済に関するケーススタディの手法を習得することができる。また、この授業を通じて履修者は、経済発展の異なる段階にある地域・国の発展特徴を理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 ②毎週の授業後に講義ファイルを復習資料として入手し、復習する。 ③授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 台湾経済発展検証（1）開発独裁体制の成立 【第3回】 台湾経済発展検証（2）発展戦略と発展過程 【第4回】 台湾経済発展検証（3）政府の役割 【第5回】 台湾経済発展検証（4）経済発展の担い手：公企業と中小企業 【第6回】 台湾経済発展検証（5）外資の役割 【第7回】 マレーシア経済発展検証（1）開発体制の形成 【第8回】 マレーシア経済発展検証（2）経済発展戦略・手法・特徴 【第9回】 ベトナム経済発展検証（1）ドイモイの形成と展開過程 【第10回】 ベトナム経済発展検証（2）外資の役割と国際分業への参加 【第11回】 中国の経済発展検証（1）発展モデル：東アジアとの比較 【第12回】 中国の経済発展検証（2）外資の役割 【第13回】 中国の経済発展検証（3）「社会主義市場経済」とは何か 【第14回】 東アジアの到達点とその将来 【第15回】 総括								
成績評価の方法	1. 成績判定方針：本授業の内容は強い前後連携関係があり、継続的な出席は不可欠であるため、出席者の成績は、出席状況と総合学習効果（テスト）を合わせて決める。 2. 総合学習効果の点数+出席状況で判定する。 3. 3回以上の無断欠席は失格になる（受験できない）！！！！								
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週内冒頭にて行う。								
教科書	『東アジアの開発経済学』大野健一・桜井宏二郎（有斐閣アルマ）1998年								
指定図書	『アジア四小龍』E.F.Vogel（中公新書）1995年								
参考書	『台湾』伊藤潔（中公新書）2000年、『マレーシアの経済発展とアジア通貨危機』橋本雄一（古今書院）2005年、『中国経済入門』南亮進・牧野文夫（日本評論社）2012年								
教員からのお知らせ	本講義に出席する学生諸君へ 上記のテキストブック以外に下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 （1）授業ノート； （2）講義ファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。 期末試験の際に資料・教科書の持ち込みは禁止するため、この授業の単位を取得したい学生には、平日授業の出席を強くお勧めする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
その他									